



人あつての里山
 里山あつての日本人
 共に育つ子供と里山

谷津田を再生 飯田里山体験広場 (小川町飯田石舟谷 888)

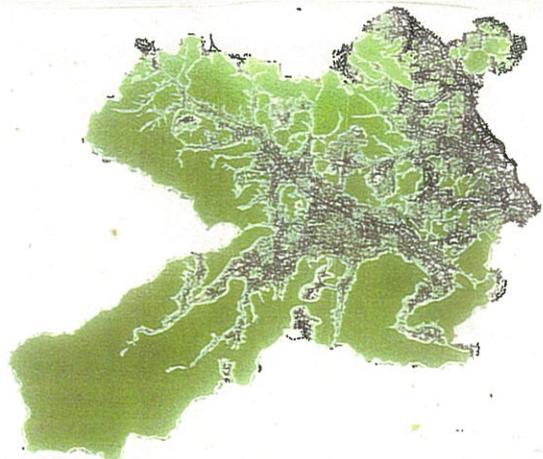
ビオトープ空間として池三ヶ所、水車も作り水も循環。シイタケ・ナメコ・ヒラタケ等の
 の榎木場も完成。カワセミ・ヤマセミ、ホタルも舞う体験広場

私たちの活動場所は

㊤ 里山づくりゾーン
 角山字滝ノ沢 町有林 7 ha

㊦ 里地体験ゾーン
 飯田石舟谷 20 a

小
 川
 町



私たちの思いは

- ☆ 里山を整備し、自然資源を循環させる技術・文化の継承
- ☆ 多様な生き物を保全し、子供たちに豊かな自然体験の場をつくる
- ☆ 里山に親しみ学び、町民の触れ合いの場をつくり、都市と農村の交流をはかる

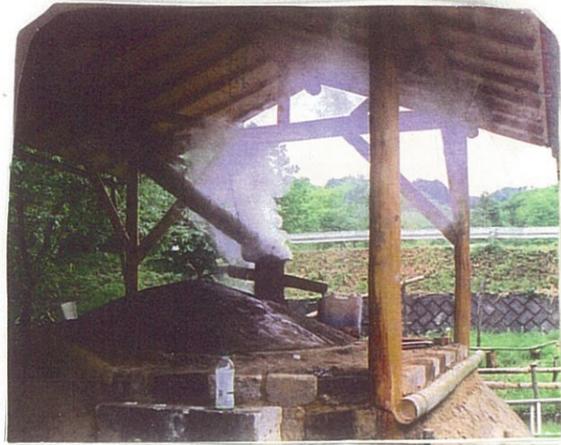


私たちに三つの夢がある



小川町里山クラブ You You

会長 佐藤 章



私たちの里山づくりには三つの夢がある。

- ① いのち溢れる里山の再生と、里山を子供たちの環境教育の場とすること
- ② 里山の資源を循環させ、持続可能なエネルギーを生み出すこと
- ③ 人と人を結びつける交流の場と里山文化を育てること

この夢は単なる夢ではない。2002年 住民参加によって策定された小川町の環境基本計画のアクションプランの実行である。

身近な自然である里山の保全活動は、水・大気・土壌・動植物、森林やゴミ問題、バイオマス問題、日本人の心の古里である文化の原像を考えることができ、新しいコミュニティ創出の場として魅力的な活動である。

2003年5月公益信託「むさしの緑の基金」助成団体認定、及び町有林・角山字滝ノ沢(7ha)の使用許可を受け私たちの里山整備活動はスタートした。

白炭窯の完成で体験広場はますます充実



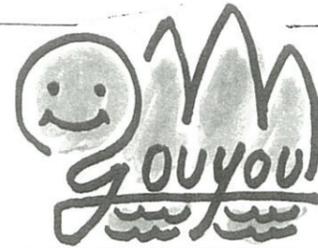
去年2月 休耕田での池づくり、炭焼き小屋のための間伐材の切り出し、皮むき、木酢液と柿しぶぬり。11月からその丸太を使っての小屋づくり。

2003年2月 白炭窯づくりは谷津田からの立ち上げのため使用した粘土が6トン、積み上げた耐火レンガ430個、瓦350枚、大谷石25個でこれらはすべてリサイクルであった。

伝統の技と知恵。小屋づくり、窯づくり協力してくれた人は百人余の汗と心意気。町内外、大人から子供までの人の手で一年余の時間をかけて完成した。

特に伝統工法による小屋づくり心血を注いだ現代の匠・滝沢英夫さん、炭焼き名人の山田善三さん。その技と知恵、こだわりの精神は私たちにほんものの感動を与えてくれました。

この体験広場の池には、トンボ・蛙、小鳥などがすでに住みつき、夏にはホタルが乱舞し、楢木場にはカブト虫などの昆虫が集まってきている。冬には炭焼き体験の広場として炭パワーを学び、子供たちや大人たちの交流の場、コンサートや講演会等の情報発信、活力と癒しの場にしたものである。



の里山整備もスタート

2003年5月 小川町より町有林(角山滝の沢 7ha)の使用承認が下記のように出された。

町有地の使用承認について(通知)

平成15年5月12日付け、使用承認申請のあった町有地の使用については、下記のとおり使用を承認いたします。

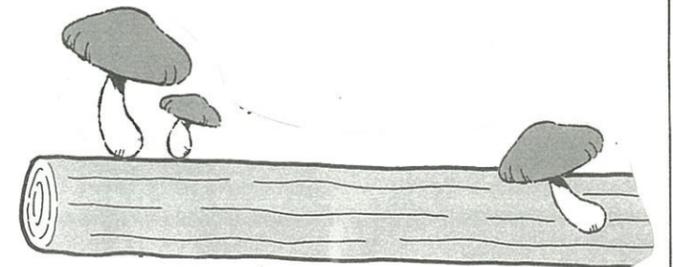
記

- | | |
|----------|---|
| 1 町有地の所在 | 小川町大字角山字滝ノ沢 1505番地、937番地 |
| 2 地目 | 山林 |
| 3 面積 | 72,488㎡ |
| 4 使用目的 | 町民の誰もが気軽に参加できる「里山づくり」のフィールドとして使用。小川町環境基本計画に位置付けられた「町民による里山づくりの推進」に係るモデルケースとして、ボランティアによる雑木林の整備や、自然観察、副産物(シイタケ栽培等)の利活用等を図る。 |
| 5 使用期間 | 当面平成15年度から10年間とする。 |
| 6 使用料 | 免除する。(環境の保全とボランティアによるコミュニティの推進に寄与するため) |

私たちの活動は、里山に不法投棄されているゴミのかたづけから始まり、植生・昆虫・小動物・鳥等の調査を年間を通して行った。

コナラ・ヤマザクラ区、アカマツ混生区、スギ造林区、林縁区、散策路・休憩区等に区分し当面の整備計画をつくりみんなで作業を始めている。幸いにして公益信託「むさしの緑の基金」の助成金により里山を整備するための道具、のこぎり・なた・せんてい鋏、チェーンソー・草刈機・ヘルメット等を買揃え、ヒサカキ・シノ等の下刈りを行い、ツツジ・春ランなどの林床植生を豊かにし、枯れ松を伐採して松林景観の復元をはかっていたりしている。

じっくり時間をかけて調査研究し、「学び」・「遊ぶ」・「生かす」・「楽しむ」の精神を大切にし、保全管理によって林床に適度の光と風をあてることで林床植物を増やしさまざまな生きものたちとの共生を深め、世代を超えた多くの町民の方に里山の保全活動と魅力が広がって行けばと考えている。



里山の植生分布

小川町角山地内の里山

田村説三里山の自然

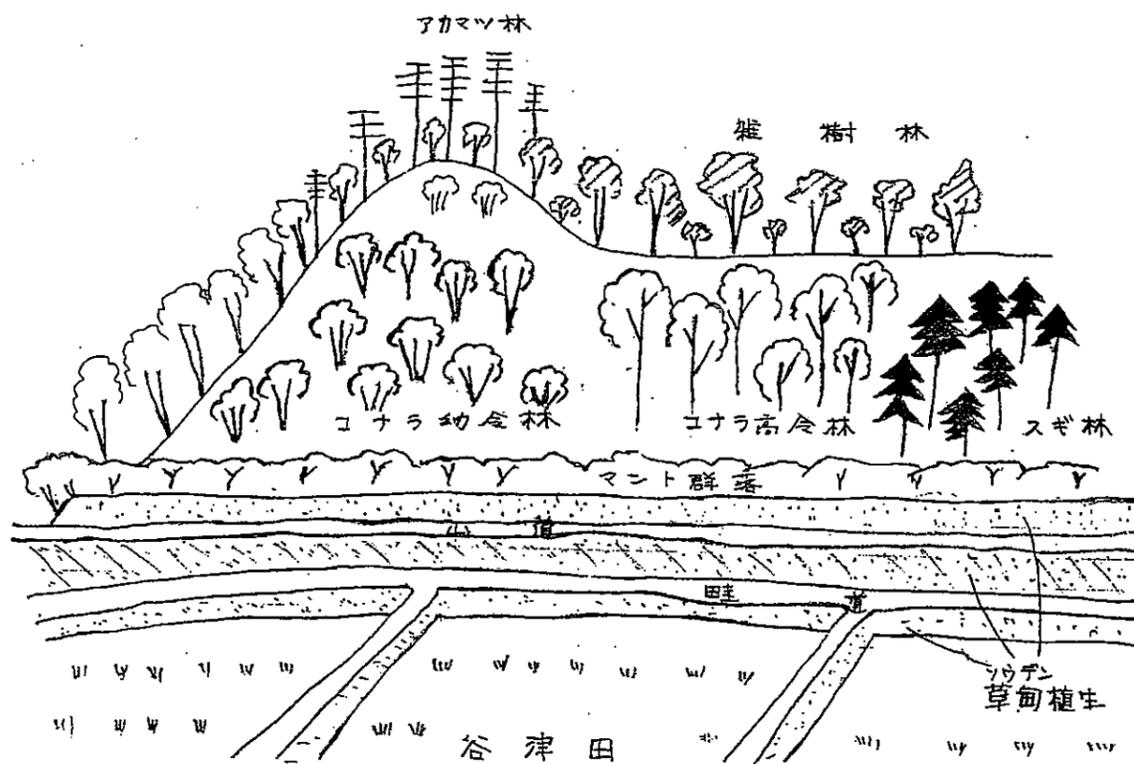
里山林

- 1. 雑木林 (コナラ・クヌギ林) ----- 山腹
 コナラ高齢林 (単幹)
 コナラ若齢林 (多幹)
- 2. 雑樹林 (多種樹林) ----- 尾根筋
- 3. アカマツ林 ----- 小丘上

里山人工林

- 4. スギ林 山腹の一部

(里山植生模式図)



(註)

- 1. マント群落 —— 低木類が作る林縁植物群落で、林内環境を維持している。
- 2. 草植生 —— 田の畦や谷津田に面した林縁の斜面等に、長年の刈り込みによって人為的に維持されてきた里山の草地である。かつて、多くの山野草の生育地であった。

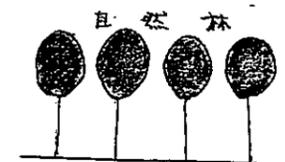
様々な形で、繰り返し繰り返し利用してきた里山と捉えています。繰り返し利用してきた里山の自然、里山林とは、どのような自然なのでしょう。

里山林 (1)・雑木林 (コナラ・クヌギ林) —— どのようにして生まれたのだろうか

自然林

1000年
余の間

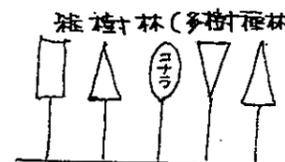
自然林が破壊されて生じた二次林 (雑樹林) と畑を巧みに切り替えながら、繰り返し利用 (焼畑) し続けた



二次林 (雑樹林)

3000 ~
350年の間

雑樹林の伐採、萌芽再生を繰り返す中で、コナラを意図的に選別し、コナラ林を仕立ててきた。クヌギは補植したもの。



里山林 (雑木林)



里山林 (2)・雑樹林 —— 採草地跡に成立した雑樹林 (多樹種林)

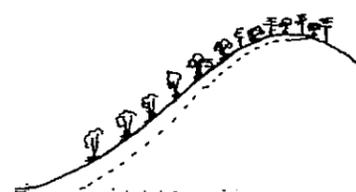
マザクラ、ウワミズザクラ、アオハダ、ミズキ、ヤマボウシ、コブシ等の花木や、放射型の美しい果実のなるものが多い。かつての採草地跡に成立して林が多いく、林の低木も含め、萌芽再生力のある樹種で多く構成されている。伐採に耐え、萌芽再生で維持されてきた。かつて、山に拓かれていた採草地 (秣場) 草と柴木が茂った低木混生草地である。

里山林 (3)・アカマツ林 —— 萌芽再生力のないアカマツは小丘上等が生活域

アカマツは、小丘上や尾根では、アカマツの種子の発芽、成長が、コナラの成長より、競争に勝つことが出来る。

伐採後

成長



気分まで明るくなる山の手入れ

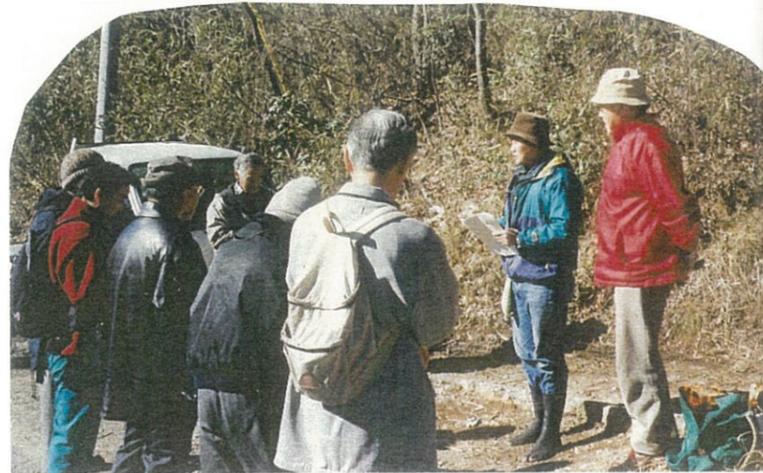
木村 紀男

毎日が日曜日になろうとした時、これからどんな生活があるのだろうかと考えました。

毎週のように周辺の山歩きで、民家にごく近いところで、間伐されず、陽が当たらないだけでなく獣道もないような里山との出会いばかりがあった。秋から冬にかけての栗拾い、メジロ捕りなどを楽しんだ子供のころの近くの山々とはとんでもない違い。

誘われて里山クラブに。30数年以上も手の入った形跡のない山に入り、1本の本木を切ると山肌に太陽が差し込み、気分まで明るくなる。徐々に仲間にも慣れるに従って、実に多くの知識を蓄えている集団だと思った。木、花、草、鳥、魚など自然界の人間辞書のような仲間が多く、一緒に作業をしても次々と新しい知識が飛び込んでくる。

夏が終わると実りの秋、あの炭焼き小屋の前で、クラブみんなで駒打ちしたキノコ類を味わえる日が待ち遠しい。



悠遊空間の帯広がる

町有林 滝ノ沢の里山づくり — いま・これから

1. 現在進めている『里山づくり』計画

①「里山づくり」整備計画にあたっては、たき火を囲んで語った「みんなの思い」を基本において、各地で進められている里山づくりの経験を活かしていきます。

- ア、雑木林は小川町の宝（雑木林の自然をみんなで守りたい）。
- イ、雑木林を活かした地域の伝統文化に学び、現在に活かしたい。
- ウ、大気・水・大地を育む森林と動植物との共生を大切にしたい。
- エ、自然の中で遊び、子供達の豊かな心と生きる力を育てたい。
- オ、里山とのふれあいで心を癒し、人々のふれあいの輪を広めたい

②この滝ノ沢町有林は、かつて草刈り場・薪炭林として利用されてきた入り会い山で、植物相が豊かな山です。

次のような区分をして、必要な手入れをしていくことにしています。

- コナラ・ヤマザクラ地区**：下刈りなどの手入れで、雑木林固有の豊かな林床植生を甦らせ、美しい雑木林をめざします。
- アカマツ地区**：他尾根スジに残った「昔の里山景観」のなごりです。ヤマツツジのある松林景観の復元をめざします。松茸復活もめざします。
- スギ造林地区**：土壌保全や野鳥の棲家として、また、自然植生遷移の観察区として、そのままの状態を保全します。
- 林縁地区**：林内環境を守り、多様な植生を観察できるエリアとして大切にします。
- 散策路・休憩区**：ゆったりと散策でき、観察・憩い語らいの空間を創る。

③当面の整備

○散策路・休憩区の整備

- ・**散策路**は、ゆったり楽しめる道をめざして道幅は1mとし、両脇1mの低木を切り取り山ツツジや山野草豊かな空間を期待しています（前山峰まで進みました）。
- ・**休憩エリア**は周囲が見渡せる丘や峰部にゆっくりできる空間をめざして整備します。

- * 前山丘部エリア（前山の林内観察、きのこのポイントに）
 - * 前山峰部エリア（緩やかな傾斜面で林内コンサートも）
 - * 中山峰部エリア（山ツツジが多い広場で楽しみなゾーンに）
- 以上の3カ所を下刈りをして整備中です。



○コナラ・ヤマザクラ区

第一ステップとして、ヒサカキ・イヌツゲ・アズマネザサを除伐し、ヤマツツジ等の花や実をつける木は残し、林床に光を当て植生を豊かにすることをめざして前山から進めています。

落ち葉除去等の効果も観察中です。林内が明るくうなり、多くの山野草が楽しめる日を夢見て作業が進みます。

2. これからもっと楽しく、多様な企画でより多くの人と

○企画の多様化

- ・(調べる) : 植生・動物・野鳥・生態系の調査観察、キノコの現地講習会
- ・(まとめる) : 樹木・草本の花暦、野鳥・動物暦、薬用植物・山菜暦作り
- ・(学ぶ) : 樹木・野草・薬草・動物・過去の活用術
- ・(食べる) : 山菜、きのこ、木の実採り。
- ・(遊ぶ) : 里山での遊び作り、ツリーハウス、ぶらんこ、季節の花見
- ・(活かす) : 木工加工、竹細工、つる籠、落ち葉堆肥作り、炭焼き
- ・(楽しむ) : 里山コンサート、里山まつり

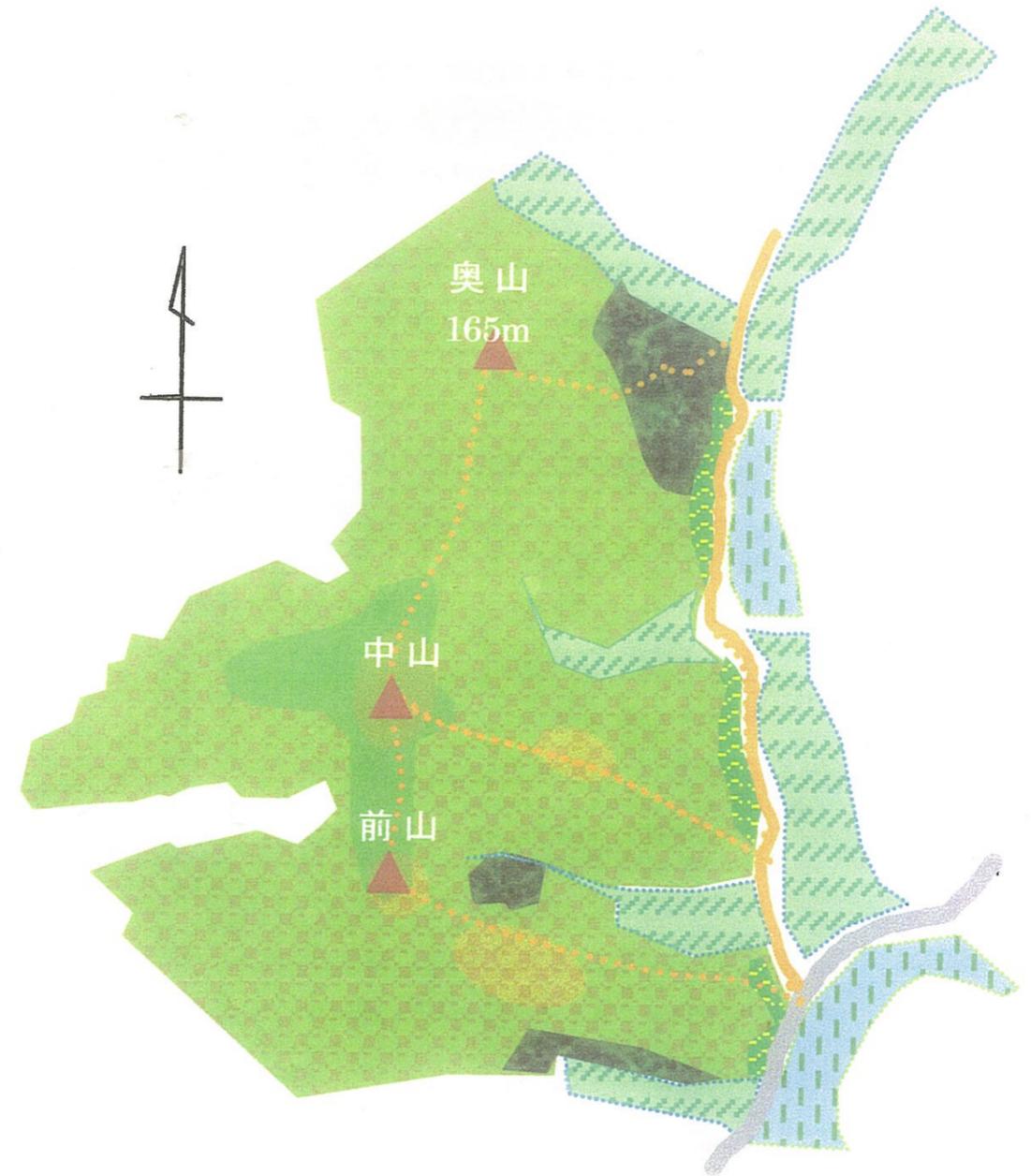
○作業の多様化

- ・下刈り、炭材作り、炭焼き、落ち葉はき、萌芽更新、松茸林の復活、キノコの植菌、昆虫の床作り
- ・散策路整備、案内標識作り、樹木の名札つけ

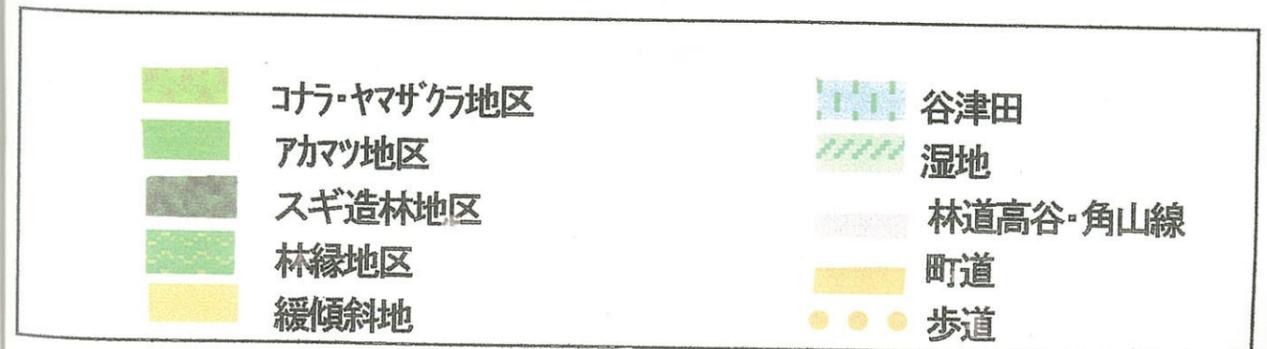
3. 全体計画について

- ①町有林利活用の使用許可を得たので、町に対する「里山づくり構想」の提出や案内板設置、町広報による町民参加促進等を年内には実現したい。
- ②谷津を活かした散策路や休憩小屋等の検討
- ③谷津田の活用策の検討
- ④周辺林地を含めた散策路の企画
- ⑤樹木・草本の花暦、動物・鳥類観察暦を作る

滝ノ沢町有林概念図



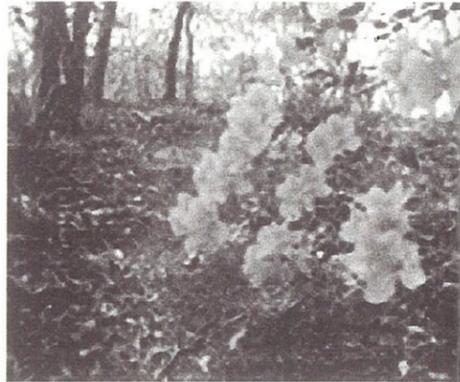
凡例



里山に咲く可憐な花たち(初夏編)

森林インストラクター 山田寛

5月の連休、林道から山を眺めていると、コナラやリョウブの若葉が十分に開いたその奥にヤマツツジの橙色が見え隠れしていました。山に入ると、ヤマツツジが林内に差し込む陽の光を浴びて小さな太陽のように輝いています。頭上には、コバノネリコの白い花穂が春の残る青空に溶け込んでいました。



ヤマツツジ

陽当たりの良い畦では既に花季を終えたツボスミレは、谷津の奥ではこの頃が丁度盛りです。

中旬から下旬にかけて、林床はさらに暗くなり、日陰を好むギンランが白い花を着け、続いてチヤクソウも丸いつぼみを着け始めます。この頃は、ツクバネウツギやガマズミ、コバノガマズミ、ルバウツギ、オトコヨウゾメなど里山の低木層を構成している主な樹木が白い花を次々に咲かせます。湿地を好むキツネノボタンの鮮やかな黄色は、薄暗い谷津では目立つ存在でした。



ウツボグサ

6月に入り、ノアザミが林道脇に赤紫色の花をつけました。その上のマント群落(ヤブ)には、ノイバラやノイカズラなどが見られます。マント群落沿いに散在するシモツケの赤紫色は、白い花が多いこの季節では一番目立つ存在です。明るい林床にはコアジサイが青い清楚な花を着け、林床を覆うヒサカキの合間や薄暗い谷津では、タツナミソウやイチヤクソウ、クモキリソウなどがひっそりと小さな花を咲かせています。

下旬になるとウツボグサが畦上に紫色の穂を咲かせ、林縁や谷津では、オオバギボウシが花を伸ばし始めました。リョウブが白い穂を広げるといよいよ夏本番です。

7月の林縁では、オカトラノオの白い穂が小さな群落を作っています。その地際ではオオバジャノヒゲが肉厚の花穂を伸ばしてきました。まるで淡緑色の羽虫のようなユニークな形の花をつけたノヤマトンボは、林床の植生が乏しい場所を好んでいるようです。

陸化が進行している谷津に進入したネムノキは、7月上旬に花を着けましたが、陽射しが足りないせいか勢いがありません。リョウブの白い花穂には、蜜を求める昆虫が絶えず訪れ、その羽音が花の存在を知らせてくれます。



ノヤマトンボ

滝ノ沢町有林花暦:初夏(草本編)

No.	科名	種名	花の色	場所	5月			6月			7月			
					上	中	下	上	中	下	上	中	下	
1	ユリ科	チゴユリ	黄	林縁	上									
2	バラ科	ミツハツチグリ	黄	林縁	上									
3	スミレ科	ツボスミレ	黄	林縁	上									
4	ナデシコ科	ウシハコベ	黄	林縁	上									
5	キンポウゲ科	ウマノアシガタ	黄	林縁	上									
6	ナデシコ科	ミノフスマ	黄	林縁	上									
7	キク科	ハルジオン	黄	林縁	上									
8	キク科	ニガナ	黄	林縁	上									
9	ラン科	ギンラン	白	林縁	上									
10	バラ科	キジムシロ	白	林縁	上									
11	ヤマノイモ科	タチコロ	白	林縁	上									
12	キク科	オオジシバリ	白	林縁	上									
13	イチヤクソウ科	イチヤクソウ	白	林縁	上									
14	キンポウゲ科	キツネノボタン	黄	谷津	上									
15	セリ科	チドメグサ	黄	林縁	上									
16	キキョウ科	ミゾカクシ	黄	林縁	上									
17	シソ科	タツナミソウ	黄	谷津	上									
18	トクダミ科	トクダミ	黄	谷津	上									
19	キク科	ノアザミ	紫	林縁	上									
20	キク科	ハハコグサ	黄	林縁	上									
21	ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	黄	林縁	上									
22	ラン科	クモキリソウ	黄	谷津	上									
23	オオバコ科	オオバコ	黄	林縁	上									
24	シソ科	ウツボグサ	紫	林縁	上									
25	トウダイグサ科	タカトウダイ	黄	谷津	上									
26	キク科	ヒメシヨオン	黄	谷津	上									
27	ユリ科	オオバジャノヒゲ	黄	林縁	上									
28	サクラソウ科	オカトラノオ	白	林縁	上									
29	ラン科	ノヤマトンボ	白	林縁	上									
30	ユキノシタ科	チダケサシ	黄	林縁	上									
31	カタハミ科	カタハミ	黄	谷津	上									
32	ユリ科	ヒメヤブラン	黄	林縁	上									
33	セリ科	セリ	黄	林縁	上									
34	セリ科	ミツバ	黄	林縁	上									
35	ヤマノイモ科	オニトコロ	黄	林縁	上									
36	キキョウ科	ニワゼキショウ	黄	林縁	上									
37	サクラソウ科	コナスビ	黄	林縁	上									
38	ツユクサ科	ツユクサ	黄	谷津	上									
39	キク科	コウゾリナ	黄	谷津	上									
40	シソ科	アキノタムラソウ	黄	谷津	上									
41	ユリ科	オオバキボウシ	黄	谷津	上									

凡例	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> 林縁明部/道脇</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> 林縁暗部/谷津内</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> 林内</div> </div>
----	---

滝ノ沢町有林花暦:初夏(木本編)

No.	科名	種名	花の色	場所	5月			6月			7月			
					上	中	下	上	中	下	上	中	下	
1	カエデ科	ウリカエデ	黄	林内	●									
2	スイカズラ科	ウグイスカグラ	白	林内	●									
3	モクセイ科	コバノネリコ	白	林内	●									
4	バラ科	モミジイチゴ	白	林内	●									
5	バラ科	クサホケ	白	林内	●									
6	スイカズラ科	ミヤマカマスミ	白	林内	●									
7	スイカズラ科	ガマスミ	白	林内	●									
8	バラ科	ヤマブキ	黄	林内	●									
9	ツツジ科	ヤマツツジ	白	林内	●									
10	ユキノシタ科	マルハウツギ	白	林内	●									
11	スイカズラ科	オトコヨウゾメ	白	林内	●									
12	スイカズラ科	コバノカマスミ	白	林内	●									
13	スイカズラ科	ツクハネウツギ	白	林内	●									
14	クミ科	オニグルミ	黄	林内	●									
15	クワ科	ヒメコウゾ	黄	林内	●									
16	クワ科	コウゾ	黄	林内	●									
17	ニシキキ科	コマユミ	黄	林内	●									
18	ニシキキ科	ニシキキ	黄	林内	●									
19	ウルシ科	ヤマウルシ	黄	林内	●									
20	ユキノシタ科	コアシサイ	白	林内	●									
21	バラ科	ノイバラ	白	林内	●									
22	ツツジ科	ネジキ	白	林内	●									
23	スイカズラ科	スイカズラ	白	林内	●									
24	バラ科	シモツケ	白	林内	●									
25	イホタノキ科	イホタノキ	白	林内	●									
26	ツツジ科	ナツハゼ	白	林内	●									
27	ミツハウツギ科	ゴンスイ	白	林内	●									
28	ブナ科	クワ	黄	林内	●									
29	クマツツラ科	ムラサキシキブ	白	林内	●									
30	マメ科	ネムノキ	白	林内	●									
31	リョウブ科	リョウブ	白	林内	●									
32	ヤブコウジ科	ヤブコウジ	白	林内	●									

凡例	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 15px; height: 10px; background-color: #90EE90; border: 1px solid black;"></div> 林縁明部/道脇 </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 15px; height: 10px; background-color: #008000; border: 1px solid black;"></div> 林縁暗部/谷津内 </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 15px; height: 10px; background-color: #006400; border: 1px solid black;"></div> 林内 </div> </div>
----	--

秋から冬にかけての滝ノ沢町有林の鳥

百武 充

バードウォッチングは秋から冬がベスト

夏の間、滝ノ沢町有林周辺の低地の林に住む鳥の種類は少なく、見られる鳥はヒヨドリ、メジロ、シジュウカラなど限られた種類だけです。ちょっと山沿いに行くというオオルリやセンダイムシクイなども、このあたりには住んでいません。

また、8、9月は繁殖という大仕事を終えた鳥たちが羽毛を取り替えるという、これも体力の消耗を伴う作業があるのであまり活動的でない時期にあたり、見られる鳥はいっそう少ないのです。

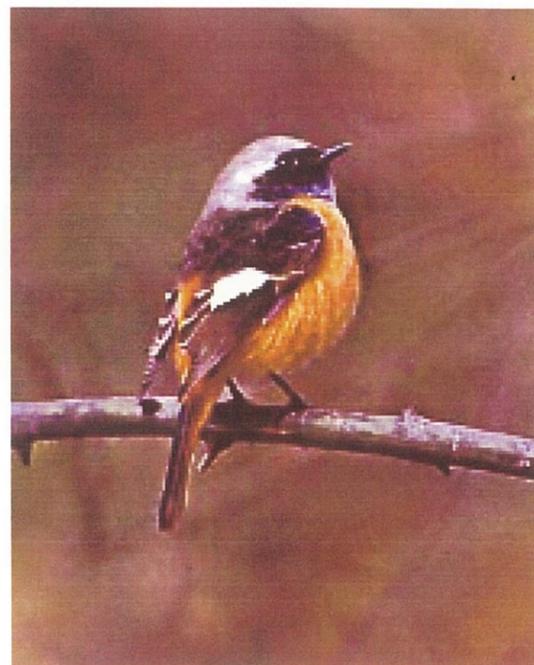
しかし、10月になると、カケス、アオジ、カシラダカなど、山地や北方から冬を越すために渡ってくる鳥が姿を現し、また、山地で繁殖して南に渡る途中のオオルリやメボソムシクイ、北から南への移動の途中に通過するエゾビタキのように、ごく短い期間だけ寄っていく鳥もあるので、観察できる鳥の種類はずいぶん多くなります。また、11月末に木の葉が落ちると林の中は見通しがよくなるので、鳥の姿を見つけるのも夏よりはずっとやさしくなります。低地では、秋から春までがバードウォッチングに適した季節です。

どこにどんな鳥がいるか

冬鳥のうち、カシラダカやマヒワは比較的渡来が早く、10月中旬には見ることが多いようです。美しいジョウビタキが家庭の庭に来るのは10月25日ごろです。ツグミは日本には10月中旬には来ていますが、雪が降るまではあまり低地には来ないので、町有林付近に姿を見せるのはもっと遅くなります。

鳥はよく水を飲み、水浴びが好きなので、鳥が多くいるのは尾根すじではなく、沢に近いところです。また、木の実がなっているところには、それを食べに多くの鳥が集まってきます。

水田・畑にはセグロセキレイ、ハクセキレイ



ジョウビタキ (オス)



アオジ (オス)

町有林に多いヒサカキの実は、ヒヨドリやメジロなど、多くの鳥が冬を生き延びるためのたいせつな食料になっています。カケスやキジバトは、餌は地上で探すことはありますが、とまるときは木の上の方にいることが多いようです。また、水田を見渡せる木の枝や杭には、ノスリやモズがとまっていることがあります。このように、鳥がよくいる場所の感覚をつかむと、姿を見つけるチャンスが格段に多くなります。

鳥から見えてくるもの

静かな林を、乾いた落ち葉を踏んで歩くのはそれだけでも気分のよいもので、思いがけず間近に鳥たちの姿を見たり、けもの足跡やフンを見つけば、野生の生き物と同じ世界とともに住むよろこびを、きっと感じられることと思います。そうして、見た鳥の名前や、足跡が何のけものものかがわかれば、自然との距離はあっというまに身近なものになってきます。人に話をするときなどにも「きれいな小鳥がたくさんいた」と言うより「シジュウカラとエナガの 30 羽くらいの群れを見た」と言うほうが、情報としてずっと相手に伝わりやすいのではないのでしょうか。

また、見た鳥の種類や数を記録しておく、長い年月の間には、その場所の環境の変化を示すよい資料になります。生き物に対して「きれい・かわいい」と思う感性を持ち続けるのは大事なことです。そこからもう一歩進めて、正確に記録する目で見ること、自然の扱いを考えるためには必要とされるのです。

イ、ツグミ、ハシボソガラスなど、開けた地上で餌を探す種類が、沢沿いやぶや林の縁にはウグイス、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、ジョウビタキなどがいます。

林内には割合明るいところにシジュウカラ、エナガなどのカラの仲間が群れを作って行動していますし、ヒサカキなどの低木の多い暗い林の地上近くには、ルリビタキやアオジが住んでい



ルリビタキ (オス)

雪の広場でのきのこ汁

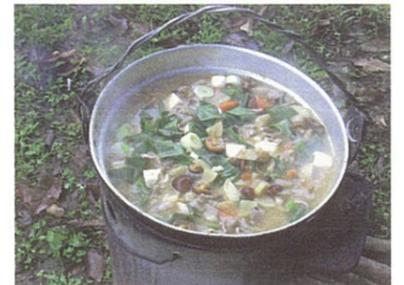
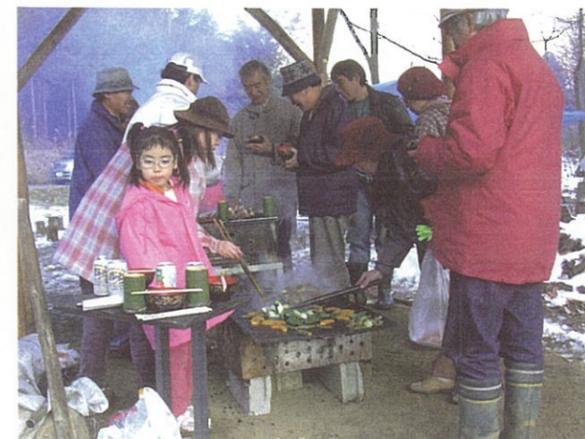
犬木みちよ

思いがけなく5年前に小川町に越してきて、子供達も緑豊かな町をととても気に入っています。昨年、里山クラブのことを知り、早速に参加させていただいています。

毎月、色々な作業があり、子供達は「疲れた」と言いながらも、翌月には新しい作業にわくわくしています。全部は参加できませんでしたが、特に炭焼き窯の小屋作りの時は、柱を建てて小屋が建っていくの間近に見てビックリしていました。

12月の懇親会では、雪が残る広場でのバーベキューと、きのこ汁をいただきました。普段は「シイタケが嫌い」と食べないのに、大きなきのこに驚き、「もっと食べていい？」とおかわりをしていました。今年3月の特別講習会では、きのこの植菌をしました。ヒラタケでしたが、広場の隅で秋のきのこ汁になるのを待っているようです。

3、4月は炭焼き窯作りでした。3月は主人と息子のみの参加でしたが、息子は瓦運びを手伝い「良くできた」とほめてもらい嬉しかったようです。4月は粘土、セメント、土を混ぜ合わせ、泥の団子を作り、塗り固めていきました。子供達も楽しそうに作りましたが、いくら作っても足りないほどでした。最後は丸く盛って踏み固め、仕上げに全員で手形を押して完成しました。その後、乾燥させたり、焼いたりして、5月にはすてきな釜が仕上がっていました。子供達の一番楽しかったのは、二つ目の池の水車で水遊びでした。作業も遊びになっていて、「楽しかった、又やりたい」とのことです。月に1回なので、全部参加できそうだと思っていたのですが、雨や用事が重なるのが残念です。これからも、子供と一緒に参加ですがよろしくお願いします。





小川町里山クラブ "you-you"



▲里地体験広場も完成(池、白炭窯、水車、キノコのほだ木場)

・設立	平成14年2月11日
・代表	佐藤 章
・構成員	30名
・連絡先	0493-72-2070(TEL)
・活動地域	里山づくり(小川町角山滝ノ沢町有林7ha)、里地体験ゾーン(小川町飯田谷津田20a)
・活動内容	(1)里山づくりゾーン…豊かな植生の保存と自然観察、薪炭林の萌芽更新技術の継承 (2)里地体験ゾーン…炭焼き窯づくり、キノコのほだ木づくり、谷津田の池づくり、ホタルの里づくり

▲TOP

<http://www.musashinobank.co.jp/ecology/03.html>

2003/0

里山クラブ活動報告

2002~2003年 活動の記録

- 2/11 (祝) 設立準備会 (里山体験広場 (小川町飯田石船谷888))
里山について、各自 "思い" を語る
講演・・・ナチュラリストの自然誌 (百武充氏)
コンサート (オカリナ、尺八、バンジョー)
- 3/31 (日) 設立総会
小川町里山クラブ "You-You" 結成
里山予定地 (小川町角山滝ノ沢7ha) の自然観察
- 4/15 (月) 池作り、体験広場 (谷津田) にビオトープ空間としての池を2か所作る
- 4/21 (日) 雨天中止 (町有林の自然観察・活用計画の立案、野草料理体験)
- 4/29 (祝) 体験広場でアジア学院学生 (30名) の体験学習
- 5/3 (祝) 笠山登山 (小川町の里山観察、貴重なブナ及び自然観察)
- 5/11 (土) 竹炭焼き体験 (あきるの市のボーイスカウト指導者らの竹炭焼きと竹細工の体験の指導)
- 5/18 (土) 緑の講演会 (木枯らし紋次郎=中村敦夫・藤原信也) 共催
- 5/19 (日) アースデー参加 (パネル展示、里山クイズ)
- 6/16 (日) バードウォッチング・槻川の自然観察及びミーティング
パトリア~金嶽川合流点 (講師: 百武充・馬場信一)
- 6/16 (夜) ホタル観賞会 (飯田川の里山体験広場の脇、カワニナ保存活動場所)
- 7/19 (祝) 竹炭用竹材の運び出し (活動協力・支援者からの提供竹材)
- 9/22 (日) ドラム缶による竹炭焼き、竹炭の顕微鏡観察、ビオトープ整備
指導者: 佐藤章・輪湖昇



自然の豊かさ次世代に

小川町 里山体験広場が完成

小川町の住民で作る「里山クラブYou You」(佐藤章代表)はこのほど、同町飯田石船谷の山間地に、白炭窯やシイタケ栽培などに使うほだ木場を備えた「飯田里山体験広場」の写真完成させた。同クラブが提唱する里山の拠点作り構想の第一弾。町民らは「自分たちで作ったからこそ、愛着もわく。自然の豊かさを次世代に伝えていきたい」と喜んでい

同クラブは、薪や灰、ワラびやキノコなどの山の幸を確保する生活の場で、鳥や昆虫と戯れる子供たちの遊び場でもある。身近な「里山」の大切さを再認識しようと、町民30人で結成。「官の倉里山文化圏構想」を策定して、観光資源の「官の倉山」を中心に古墳や歴史的建造物を含めた地域づくりを計画し、町も町民の活動に賛同している。体験広場は、同クラブのメンバーが「この場所を利用して水の循環施設、シイタケ、ナメコ栽培に使うほだ木場を整備した。白炭窯で作る炭を



毎日新聞
五月十六日付けより

計画している。18日に広場で行う記念イベントでは、野鳥の鳴き声を求めてハイキングを行うほか、オカリナ、ハーブなどの楽器を使って地元演奏家らによるコンサートも開かれる。佐藤代表は「以前は、自然破壊はダメと行政と闘ってきたが、行政とともに身近な自然を守ることが大切。これからは町民主体で問題提起していきたい」と話している。問い合わせ先 0493-72-2070 佐藤代表まで。【橋本利昭】



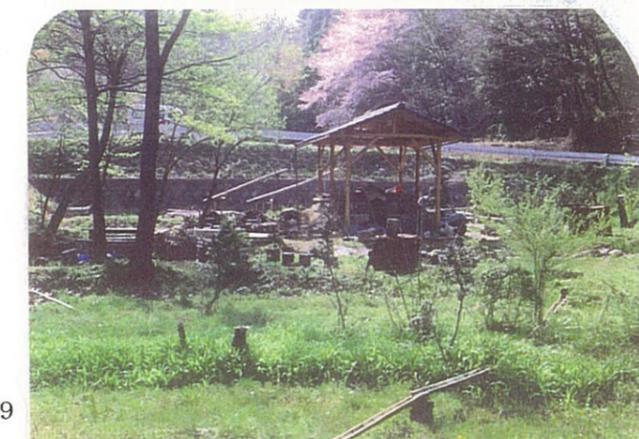
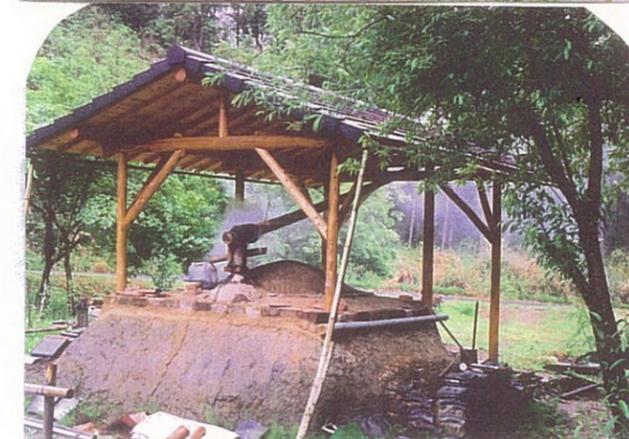
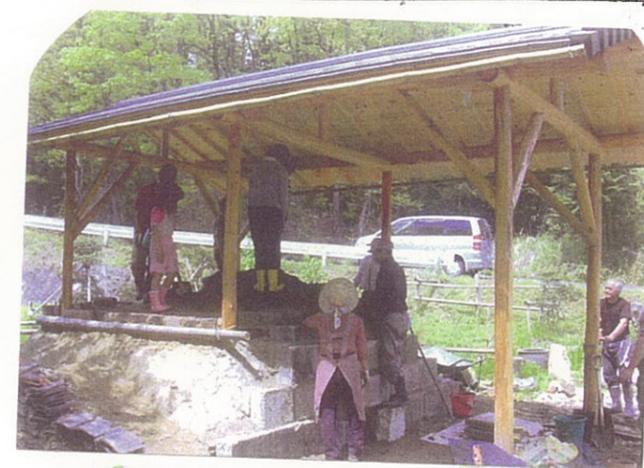
白炭窯完成

2003年5月16日

2002年2月 池作り、その土で窯の土台作り
 10月 炭焼き小屋の上棟式
 2003年3月 窯作り開始
 5月 窯の火入れ式

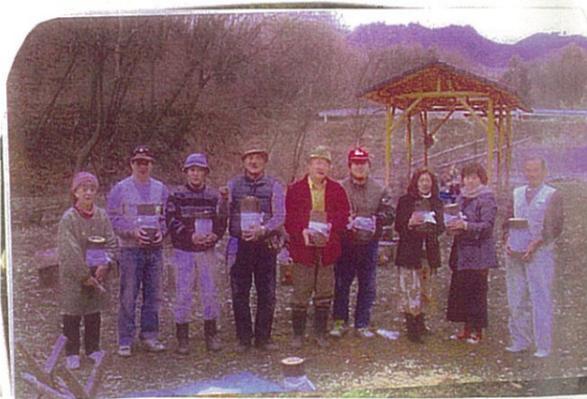
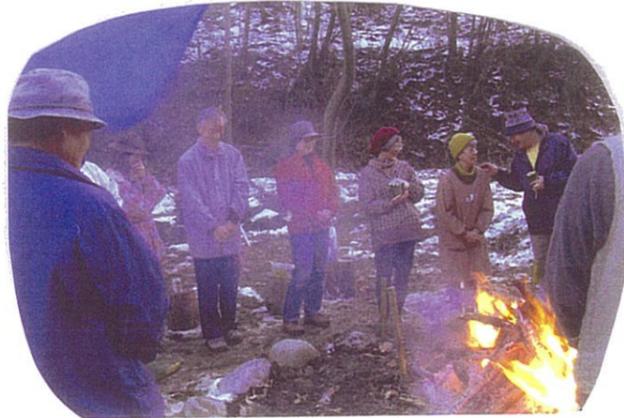
- 10/20(日) 官の倉里山文化圏の観察およびキノコ・雑木林の観察。
採りたてのナメコでの熱いナメコ汁
- 11/17(日) 間伐材を利用して、伝統工法による炭焼き窯の小屋作り
指導者：滝沢英夫氏
- 12/15(日) 冬鳥観察（プリムの跡地、講師：百武充）、
親睦会（バーベキュー・熱い鍋料理）

- 1/7(金) 飯田の栽培畑の楮の刈り取り、慈恩寺への運搬
- 1/19(日) 新春里山探訪（仙元山・青山城・バードウォッチング・里山観察）
- 1/26(日) 楮蒸かし・皮むき（慈恩寺和紙工房、R・フレビン指導）
- 2/16(日) 町有林の整備（沢山の野ウサギの糞を発見）
- 3/1(土) きのこの菌の植え付け講習会（ヒラタケの植え付け）
- 3/16(日) 白炭窯作り（指導者：山田善三氏）
- 3/23(日) 町有林整備（常緑樹の刈り取り）、野草料理教室
- 4/26(土) 白炭窯作り（完成、指導者：山田善三氏）
山菜（ウルメ・コゴミ・コシアブラ……）料理
- 5/4(日) アースデー参加（パネル展示、チラシ配布）
- 5/18(日) サンコウチョウ探鳥会、炭窯完成・むさしの緑の助成金受
給記念祝賀会。コンサート（蛇喜猫賀、ハーブ・
尺八・オカリナ・バンジョウ演奏）
- 6/20(日) 助成金で購入した道具の使い初め、町有林の手入れ（枯
れ松の除去、遊歩道整備、活用構想練り）
- 7/20(日) 町有林整備（遊歩道整備・下草伐採・枯れ松除去）
植物調査（草本・木本）報告（山田さん）



焚き火を囲んで
広がる交流の輪

アジヤから地域まで
世代を越えた語らい
2002年2月～2003年5月



2002年度小川町里山クラブ"you-you"会計報告

項目	金額	摘要	合計
収入	65,000	年会費3,000円(3000円×21人、1000円×2人)	
	10,000	緑の講演会収益	
支出	21,680	例会連絡費	75,000
	6,055	材料費	
収支		キノコの駒等	27,735
			47,265

特別会計(武蔵野緑の公益信託基金の助成金)

項目	金額	摘要	合計
収入	280,000	助成金	
支出	280,000	チェンソー、草刈り機、救急用品セットのこぎり・ナタ・砥石・ヘルメット・ベルト・剪定ばさみ・山鎌各10セット等	
収支			0

*なお残金47,265円は会報発行等に執行中です。

会計 小池岑生

山でアケビの実を取る。皮をむいて食べてみるとほろ甘い味と香り。栗の実のつやつやとした光沢。秋風にたゆたいたながら咲くコスモスの花弁。自然界を造り出す種の神秘的な力は、人間の知恵や技術では計り知れない力がある。

子供たちが植物や生き物に触れ、感動し、自然界を構成している生態系のすばらしさを知り、響き合ういのちのこどもを感じとる。そこにヒューマンな感性が育ち、自然と人間を大事にする文化が生まれる。滅びの道をたどっているというオオムラサキの森。一千万円で売買されているというオオクワガタムシ。経済効率だけで破壊される野や山や川。

切れる小中高生の世界は根っ子の所でつながっている。川や野、林にたくさん

人間以外の生命の軽視は
ヒューマニズムの崩壊

生き物がいて、たつぷりと遊べた時代の子供たちの目は輝き、冒険や発見、感動が溢れていた。

だが、現在子供たちの遊びの世界には直接体験が少なくなっている。

テレビやビデオ・ゲームなどの疑似体験が増えてきて、生きることのリアリティが感じられない子供たちが増えてきた。

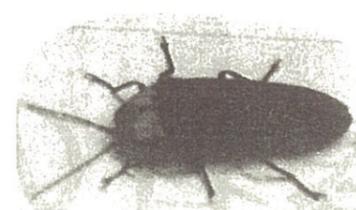
生き物たちをロボットのようには考える子供たちが増え、切れる子供たちをつくり出しているような気がする。

大阪大学の林智氏は「ヒューマニズムと動植物の生存権」で動物・植物の生命を大切にしなければならぬ理由として、

(1) 人間以外の生命をないがしろにすると「全シスラムとしての生態系」が乱される。

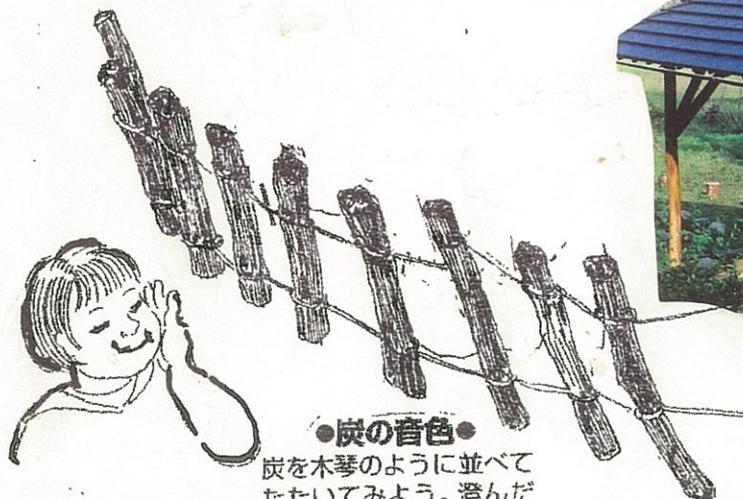
(2) 人間以外の生命の軽視は他者の生命を軽視する一情感を生み易いと指摘している。

心してかみしめるべき言葉である。



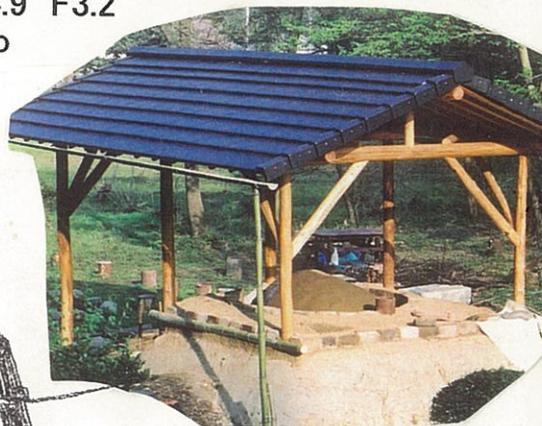


DSCN0014.JPG (1632x1224) 02/09/22 11:16:44
 NIKON E2000 1/154.9 F3.2
 Program, Auto

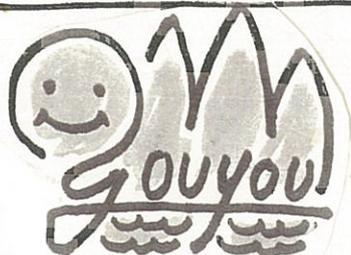


●炭の音色●

炭を木琴のように並べて
 たたいてみよう。澄んだ
 きれいな音がする。



” 雑木林 ” の 1, 3, 21 ページに入っているカットは、会のシンボルマークの応募作品です。



小川町里山クラブ

“You You”

雑木林編集部連絡先：〒355-0324

馬場 信一 (TEL)